

## 京都散策

小生、「六条の君」と言われている。  
説明は、文末に記す。

さて、その名にふさわしい京都へ。  
写真家のTさんに誘われ、家内と。  
Tさん長年のお付き合いの、  
某社運転手Nさんのおかげで、  
まことに効率の良き撮影の一日。

計画では、  
北野天満宮、紅梅庵（京膳）、龍安寺、  
嵐山と竹林の道、祇王寺、東福寺。

### 北野天満宮

修学旅行の中高生多く、折しも、献茶祭で、  
着物姿の女性が多く、日本らしさと、  
京都が、その伝統で演出する安堵感はさすが。  
岩手や浦和の高校生達とも、  
楽しく明るい会話ができた。  
皆が感じの良いヤングであった。

会話した女生徒達は着物姿であり、  
プライバシーを尊重して、  
写真掲載は控えるが、自賛できる出来である。

しかし、混雑する人の群れで、撮影には気が鈍り、  
これもよきかな？

今出川御前から境内に入り、  
今までのお参り方とは違うので、  
天神様境内の様子の印象が、記憶とは、  
こうも変わるのか不思議でもあった。

### 紅梅庵

「季節風膳おかもと紅梅庵」とあり、  
天満宮の東を南北に走る「御前通り」と、  
斜め交差する「上七軒通り」に位置し、

天神様のすぐそばで、歩いて移動。

Nさんの計らいで、大入り満員でも個室。  
京食膳と、庭の山茶花と陽光の見え隠れで、  
遠慮がちな庭の広さと、陽光の射し具合で、  
陰陽礼賛のひと時を味わう。  
マック離れで、よき御膳である。

### 龍安寺

Chinese 旅団様の大集団で、古都京都で、  
中国旅行を満喫できた。

焦点合わせの前を横切り、それはましな方で、  
前に立ちて自撮りもする。  
グループでポーズしている前を横切るので、  
なにやら怒り声も。

周囲を気にせず、自己の権利を行使する楽しさ。  
また、その権利をここでは、安全確実に行使でき、  
彼らには、その無邪気な屈託なき顔から、  
他者の犠牲で、人生バラ色の世界が。

### 古寺にて刹那の達観：

人類の原始は、もともと、  
このように唯我独尊の無邪気な世界であり、  
規範、道徳、人権、平和、平等、差別、思いやりなどと  
後付けの拘束着衣で自己をがんじがらめにして、  
人間や国家関係がややこしくなっているのでは？  
自利利他などのご高説は、結局は物欲しさの境地から？

しかし、物事を斜めやネガチブに視るのは、  
生産的ではなく、喜びを伴うものでもない。  
なんだか、わけがわからなくなってきた。

欲しければかすめ取り、邪魔と思えば壊し、  
関心も関係もなければ、距離を置き、放置する。  
これは、何も善悪・正邪の問題ではなく、  
人、否、人類の本来の、飾り気のない姿。  
Back to nature?

集約すれば、この一点に到達する。  
釈尊もこのあたりで悩まれ、  
一念発起されたのでは。

定番の、名刹の「石庭」も、絶えることなき喧噪さと  
彼らの絶え間なき座り込みで占拠され、撮影を断念。  
未練の入る余地はない。

### 嵐山と竹林の道

人々の大洪水と、山色も色あせ、観察で終わる。  
Nさんは、竹林の道さえ巧みなハンドル捌き。  
乗り入れ許可をお持ちのようである。  
彼は言う「山は一週間で見頃に」と。

しなやかに群生する竹と、群歩する人々の光景では、  
画題にも写題にも程遠い。  
まさに、人竹無害の世界をイメージし、  
シャッターは押さないことにする。

### 祇王寺

ここまでくると、  
今までの「騒」から「静」のウソのような現実。

清盛の寵を受け、同じ境遇の白拍子「仏」を紹介し、  
そのために、遠ざけられた「祇王」が21歳で隠棲の庵。  
「仏」もやがて遠ざけられ、祇王を慕ってこの庵へ。  
仏御前の遁世は17歳とか。

庭から庵を狙っていたら、萌え木色の和服の女性。  
大柄ではあるが、撮影の構図にはいい。  
後で、すれ違ったら、女装の男性で顔に品がない。  
関わる写真は削除。

東福寺へ向かおうとするが渋滞で、断念。  
京都駅へ方向転換。  
季節がら、寒しといえ、  
古都の風情と景趣は、行く川の流れにある。

京都での楽しさは、京土産のあれこれ。

京都駅地下の「阿闍梨餅」はいい。  
「千枚漬け」もいい。

さて、小生は、血圧・糖尿・頸椎症対策に、  
朝食後、6種類、つまり薬剤6錠を服用。  
正確には「六錠の君」である。